

# 今、何の病気が流行しているか！

【感染症発生動向調査事業から】



平成26年5月5日（月）～平成26年5月11日（日）【平成26年第19週】の感染症発生状況

第19週で定点当たり報告数の多かった疾病は、1) 感染性胃腸炎 2) A群溶血性レンサ球菌咽頭炎 3) 水痘でした。  
 感染性胃腸炎は定点当たり5.21人と前週（8.36）より患者報告数は減少し、例年より低いレベルで推移しています。  
 A群溶血性レンサ球菌咽頭炎は定点当たり1.15人と前週（1.58）より患者報告数は減少し、例年より低いレベルで推移しています。  
 水痘は定点当たり0.85人と前週（0.85）からの患者報告数は横ばいで、例年より低いレベルで推移しています。



## これから注意したい感染症～水痘（みずぼうそう）～

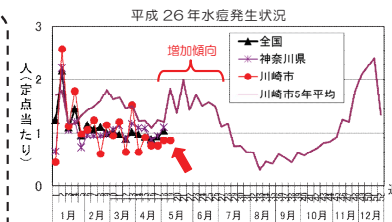
第19週はゴールデンウィーク期間中で休診の医療機関が多いため、ほとんどの疾患の患者報告数は減少しましたが、水痘は前週から横ばいとなっています。例年5～6月に増加する傾向がありますので、注意が必要です。

### 水痘ってどんな病気？

- 潜伏期間は2週間程度（10～21日）
- 症状は、発疹（水疱疹）、38度前後の発熱、倦怠感、かゆみなど 発疹は経過とともに痂皮（かさぶた）化 一般的に軽症
- 合併症は、脱水、肺炎、髄膜炎、脳炎など
- 発疹出現の1～2日前から出現後4～5日、あるいは痂皮化するまで伝染力あり

### 水痘の感染予防対策は？

- 感染力が非常に強いので、発症したら通院以外の外出はなるべく控え、登校・登園については、学校（園）やかかりつけ医などに相談しましょう。
- 予防としてワクチンがあります。本年10月以降は定期接種になる予定ですが、今の流行を避けるため、早めの接種をご検討ください。



### 学校保健安全法での取扱い

水痘は学校保健安全法において、第二種感染症とされています。出席停止期間の基準は次のとおりです。

○すべての発疹が痂皮（かさぶた）化するまで出席停止とする。ただし、病状により感染のおそれがないと認められたときはこの限りではない。



発行 川崎市健康安全研究所・健康福祉局健康安全部・各区役所保健福祉センター（保健所）  
 （問い合わせ先） 044-276-8250

# 今、何の病気が流行しているか！

【感染症発生動向調査事業から】



平成26年5月12日（月）～平成26年5月18日（日）【平成26年第20週】の感染症発生状況

第20週で定点当たり報告数の多かった疾病は、1) 感染性胃腸炎 2) A群溶血性レンサ球菌咽頭炎 3) 伝染性紅斑・突発性発疹でした。  
 感染性胃腸炎は定点当たり8.79人と前週（5.21）より患者報告数は増加しましたが、ほぼ例年並みのレベルで推移しています。  
 A群溶血性レンサ球菌咽頭炎は定点当たり1.85人と前週（1.15）より患者報告数は増加しましたが、例年より低いレベルで推移しています。  
 伝染性紅斑は定点当たり1.03人と前週（0.27）より患者報告数は増加し、例年より高いレベルで推移しています。

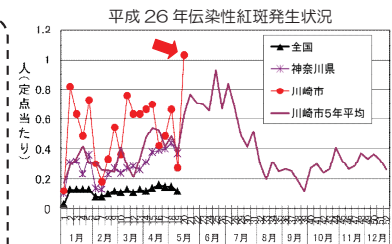


## 知っておきたい感染症～伝染性紅斑（りんご病）～

今年は現在のところ、例年に比べて、大きな流行を示す疾患はありませんが、伝染性紅斑の定点当たり患者報告数が1.03人と、過去5年平均（0.63人）を上回っています。特に宮前区で報告が多く、定点当たり2.00人となっています。

### 伝染性紅斑ってどんな病気？

- 飛沫（咳やくしゃみなど）感染・接触感染
- 10～20日の潜伏期間の後、両頬にリンゴのような紅い発疹が現れるため『りんご病』とも呼ばれる。手・足などに網目状の発疹がみられ、成人では関節炎症状がでることもある。
- 発疹が出る7～10日くらい前のウイルス排泄量が最も多く、発疹出現時には、感染力は消失している。
- 季節的には、春から患者数が増加し、6・7月にピークを迎える。
- 5歳前後の子どもに最も多い。
- 妊婦が感染した場合、胎児に異常（胎児水腫）がみられることがあるため、定期的な検診を受けることが重要である。



特徴的な発疹出現後であれば、周りに感染させる可能性はないため、通園・通学は可能です。  
 日頃から、手洗いの徹底や人混みを避けるなどの一般的な対策が重要です。



発行 川崎市健康安全研究所・健康福祉局健康安全部・各区役所保健福祉センター（保健所）  
 （問い合わせ先） 044-276-8250

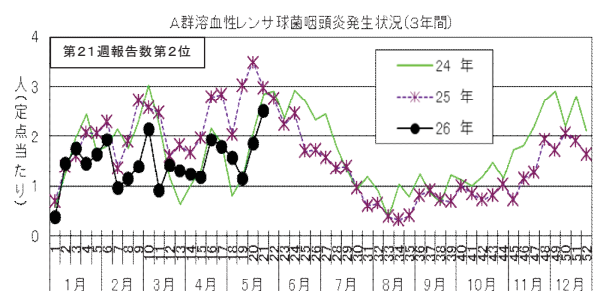
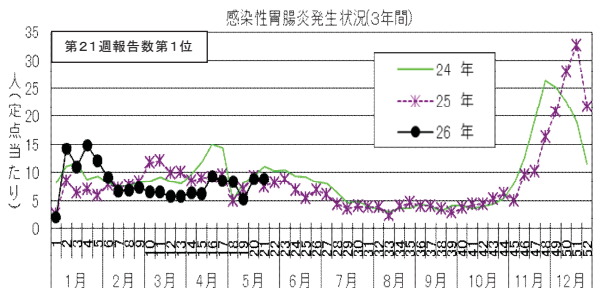
# 今、何の病気が流行しているか！

【感染症発生動向調査事業から】



平成26年5月19日（月）～平成26年5月25日（日）【平成26年第21週】の感染症発生状況

第21週で定点当たり報告数の多かった疾病は、1) 感染性胃腸炎 2) A群溶血性レンサ球菌咽頭炎 3) 伝染性紅斑でした。  
 感染性胃腸炎は定点当たり8.85人と前週（8.79）より患者報告数は増加しましたが、ほぼ例年並みのレベルで推移しています。  
 A群溶血性レンサ球菌咽頭炎は定点当たり2.52人と前週（1.85）より患者報告数は増加しましたが、ほぼ例年並みのレベルで推移しています。  
 伝染性紅斑は定点当たり0.88人と前週（1.03）より患者報告数は減少し、ほぼ例年並みのレベルで推移しています。



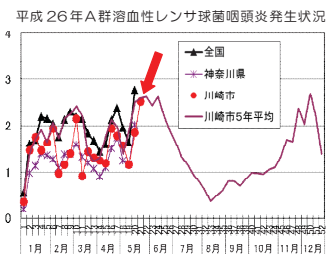
## 気をつけたい感染症～A群溶血性レンサ球菌咽頭炎～

A群溶血性レンサ球菌咽頭炎の患者報告数が定点当たり2.52人となり、前週に比べ増加しています。例年、春から初夏（5～6月）や冬季（11～12月）に報告数が増えるため、今後の動向に注意が必要です。

### A群溶血性レンサ球菌咽頭炎とは？

- **感染経路**  
 感染者の唾液や鼻水への接触または飛沫（咳やくしゃみ等）で感染。特に小児（5～15歳）に多い。
- **潜伏期間**：2～5日
- **症状**  
 突然の発熱と全身倦怠感、咽頭痛で発症。体や手足に小さくて紅い点状の発疹が出たり、舌がイチゴのように赤くなる（莓舌）ことがあります。
- **治療方法**  
 抗菌薬が効果的であり、処方された薬は主治医の指示どおりしっかり服用することが重要。
- **予防方法**  
 患者との濃厚な接触を避けることが最も重要。うがい、手洗いなどの一般的な予防法も徹底する。

合併症として急性糸球体腎炎やリウマチ熱を起こすことがあり、無治療の場合、重症化することもありますので、早めに医療機関を受診しましょう。



発行 川崎市健康安全研究所・健康福祉局健康安全部・各区役所保健福祉センター（保健所）  
 （問い合わせ先） 044-276-8250

# 今、何の病気が流行しているか！

【感染症発生動向調査事業から】



平成26年5月26日（月）～平成26年6月1日（日）【平成26年第22週】の感染症発生状況

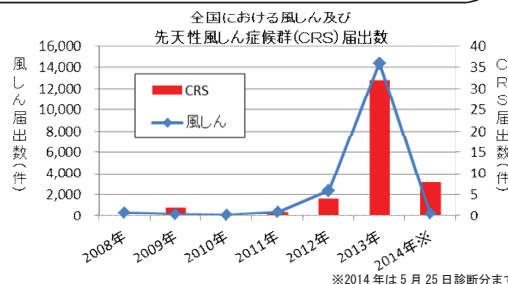
第22週で定点当たり報告数の多かった疾病は、1) 感染性胃腸炎 2) A群溶血性レンサ球菌咽頭炎 3) 水痘・伝染性紅斑でした。  
 感染性胃腸炎は定点当たり9.27人と前週（8.85）より患者報告数は増加し、例年より高いレベルで推移しています。  
 A群溶血性レンサ球菌咽頭炎は定点当たり2.97人と前週（2.52）より患者報告数は増加しましたが、ほぼ例年並みのレベルで推移しています。  
 水痘は定点当たり1.21人と前週（0.85）より患者報告数は増加しましたが、ほぼ例年並みのレベルで推移しています。

## 風しん抗体検査の実施について～風しん抗体検査の無料実施を開始します！～

妊婦、特に妊娠初期の女性が風しんにかかると、生まれてくる赤ちゃんが「先天性風しん症候群（CRS）」という病気にかかることがあります。風しんの予防には、ワクチンを接種し、風しんに対する免疫を獲得することが有効です。

風しんに対する十分な免疫があるかどうかについて、風しん抗体検査で確認することが重要です。

川崎市では、必要な方に風しんワクチン接種を促進するために、**風しん抗体検査を無料で実施**します。【実施期間：平成26年6月16日～平成27年3月31日】



### 風しん抗体検査の内容

#### 対象者

川崎市民で、風しんにかかったことがない方、風しん含有のワクチン接種や抗体検査を受けたことがない方で、次のいずれかに該当する方です。

1. 妊娠を希望する女性
2. 妊娠を希望する女性のパートナー
3. 妊婦のパートナー

検査の結果、十分な免疫がない場合は、ワクチン接種をお勧めします。その際の接種にかかわる費用はすべて自己負担となります。



### 検査の受け方

当該事業の市内協力医療機関（本市ホームページをご覧ください。）を受診し抗体検査を受けてください。なお、予約制のところもあるので、あらかじめ医療機関に直接お問い合わせください。

### 事業詳細

本事業の詳細については、次のURLからご覧ください。  
<http://www.city.kawasaki.jp/350/page/0000058232.html>

発行 川崎市健康安全研究所・健康福祉局健康安全部・各区役所保健福祉センター（保健所）（問い合わせ先） 044-276-8250（風しん抗体検査に係ることを除く）  
 ※風しん抗体検査に関することは、健康福祉局健康安全部健康危機管理担当（感染症担当：044-200-2441）までお問い合わせください。

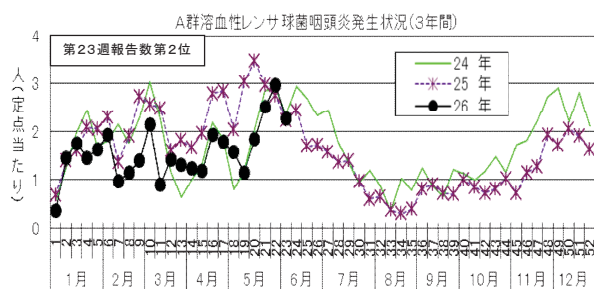
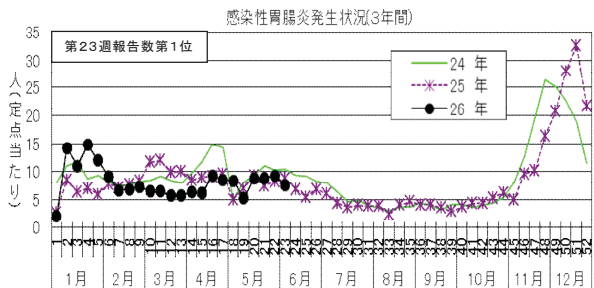
# 今、何の病気が流行しているか！

【感染症発生動向調査事業から】



平成26年6月2日（月）～平成26年6月8日（日）【平成26年第23週】の感染症発生状況

第23週で定点当たり報告数の多かった疾病は、1) 感染性胃腸炎 2) A群溶血性レンサ球菌咽頭炎 3) 水痘・突発性発疹でした。感染性胃腸炎は定点当たり7.52人と前週（9.27）より患者報告数は減少し、ほぼ例年並みのレベルで推移しています。A群溶血性レンサ球菌咽頭炎は定点当たり2.27人と前週（2.97）より患者報告数は減少し、ほぼ例年並みのレベルで推移しています。水痘は定点当たり1.12人と前週（1.21）より患者報告数は減少し、例年より低いレベルで推移しています。突発性発疹は定点当たり1.12人と前週（0.91）より患者報告数は増加し、例年より高いレベルで推移しています。



## これから気をつけたい感染症～手足口病・ヘルパンギーナ～

これからの季節は“手足口病”や“ヘルパンギーナ”など、いわゆる「夏かぜ」と呼ばれる感染症の患者報告数が増加します。原因はコクサッキーウイルスやエンテロウイルスなど様々ですが、同じウイルスでも型によって症状が異なる場合もあります。

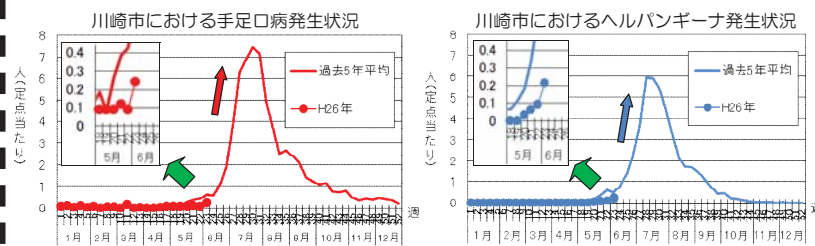
### 手足口病の症状

主に手のひら・足のうら・口の中に水疱性の発疹がみられ、熱が出ることもあります。

### ヘルパンギーナの症状

38～40℃程度の高熱を伴い、のどの奥に白い水疱性の発疹がみられます。

➡ **口の中の痛みで飲食しにくくなるため、脱水症に十分注意する必要があります。**



発行 川崎市健康安全研究所・健康福祉局健康安全部・各区役所保健福祉センター（保健所）  
（問い合わせ先） 044-276-8250

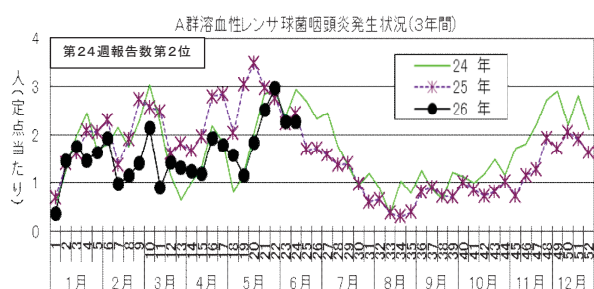
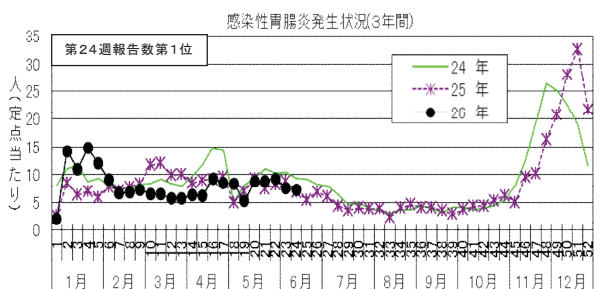
# 今、何の病気が流行しているか！

【感染症発生動向調査事業から】



平成26年6月9日（月）～平成26年6月15日（日）【平成26年第24週】の感染症発生状況

第24週で定点当たり報告数の多かった疾病は、1) 感染性胃腸炎 2) A群溶血性レンサ球菌咽頭炎 3) 伝染性紅斑でした。感染性胃腸炎は定点当たり7.27人と前週（7.52）より患者報告数は減少し、ほぼ例年並みのレベルで推移しています。A群溶血性レンサ球菌咽頭炎は定点当たり2.27人と前週（2.27）から患者報告数は横ばいで、ほぼ例年並みのレベルで推移しています。伝染性紅斑は定点当たり1.18人と前週（0.64）より患者報告数は増加し、例年より高いレベルで推移しています。



## 注意したい感染症～咽頭結膜熱～

現在、全国的に咽頭結膜熱（プール熱とも呼ばれる。）の患者報告数が増加しています。川崎市においても、主に5歳以下を中心に患者報告数が増加しているため、夏に向けて注意が必要です。

### ～病原体・潜伏期間・症状は？～

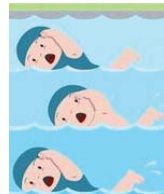
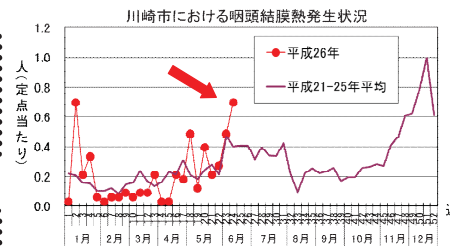
- 病原体：アデノウイルス
- 潜伏期間：5～7日
- 症状：高熱・咽頭炎・結膜炎等

### ～感染経路は？～

- 患者からのくしゃみや咳などのしぶきによる飛沫感染、手指を介した接触感染がある。
- 患者が触れたタオルや物、ウイルスに汚染されたプールの水などを介して、ウイルスが口や眼などの粘膜に入って感染することもある。

### ～気をつけたいこと！！～

- 患者との接触を避け、手洗いを心がける。
- タオルの共用は控える。
- 水泳前後にシャワーを使用する。



発行 川崎市健康安全研究所・健康福祉局健康安全部・各区役所保健福祉センター（保健所）  
（問い合わせ先） 044-276-8250

# 今、何の病気が流行しているか！

【感染症発生動向調査事業から】



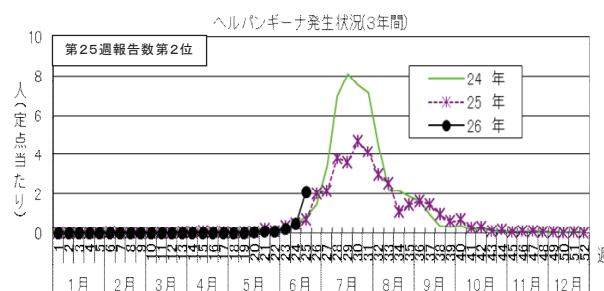
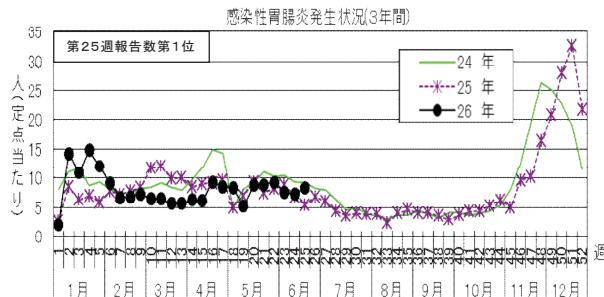
平成26年6月16日（月）～平成26年6月22日（日）【平成26年第25週】の感染症発生状況

第25週で定点当たり報告数の多かった疾病は、1) 感染性胃腸炎 2) ヘルパンギーナ 3) A群溶血性レンサ球菌咽頭炎でした。

感染性胃腸炎は定点当たり8.30人と前週（7.27）より患者報告数は増加し、例年より高いレベルで推移しています。

ヘルパンギーナは定点当たり2.09人と前週（0.48）より患者報告数は増加し、例年より高いレベルで推移しています。

A群溶血性レンサ球菌咽頭炎は定点当たり1.55人と前週（2.27）から患者報告数は減少し、例年より低いレベルで推移しています。

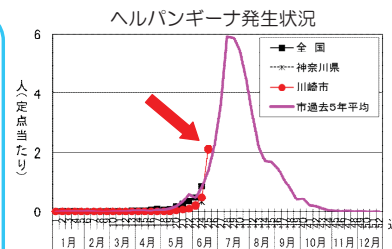


## ～流行の兆しか？ヘルパンギーナに注意！～

例年、夏に向けて「手足口病」「ヘルパンギーナ」「咽頭結膜熱」等の夏かぜが流行します。昨年は6月下旬から「手足口病」の報告数が増加しましたが、今年は「ヘルパンギーナ」の報告数が増加しています。7月末にかけて、さらに患者報告数が増えることが予測されますので、今後の予防対策が重要です。

### ヘルパンギーナってどんな病気？

- 潜伏期間：2～4日間
- 症状：高熱（38～40℃）、咽頭痛（のどの痛み）、のどの奥に白い水疱性の粘膜疹
- 感染経路：患者ののどからの分泌物や便から感染（飛沫感染・糞口感染）  
※患者の便からは1か月ほどウイルスが出ている可能性があるため、患者のおむつを替えた後などは注意が必要
- その他の特徴
  - ・主に1～4歳の小児を中心に流行
  - ・一般に予後は良好だが、髄膜炎を併発し重症化することもある



最も効果的な予防方法は「**手洗い**」です。特に便の取扱いには注意しましょう。  
患者はのどの痛みにより十分な飲食ができなくなることもあるため、**水分補給**を心がけましょう。

発行 川崎市健康安全研究所・健康福祉局健康安全部・各区役所保健福祉センター（保健所）  
（問い合わせ先） 044-276-8250

# 今、何の病気が流行しているか！

【感染症発生動向調査事業から】

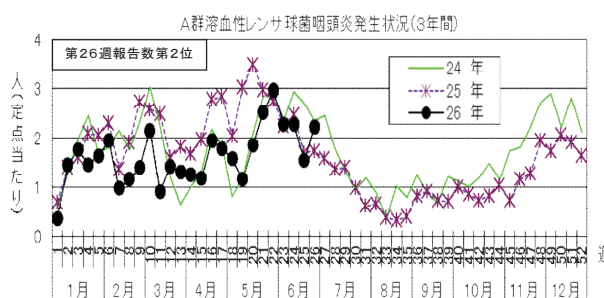
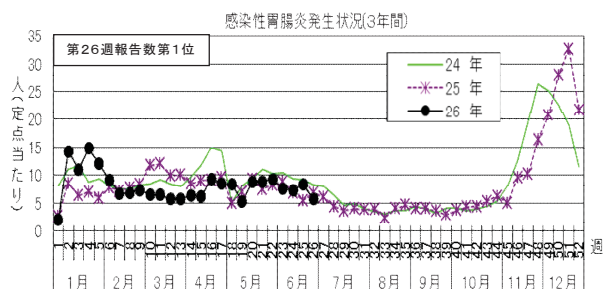


平成26年6月23日（月）～平成26年6月29日（日）【平成26年第26週】の感染症発生状況

第26週で定点当たり報告数の多かった疾病は、1) 感染性胃腸炎 2) A群溶血性レンサ球菌咽頭炎 3) ヘルパンギーナでした。

感染性胃腸炎は定点当たり5.73人と前週（8.30）より患者報告数は減少し、ほぼ例年並みのレベルで推移しています。

A群溶血性レンサ球菌咽頭炎は定点当たり2.21人と前週（1.55）から患者報告数は増加しましたが、ほぼ例年並みのレベルで推移しています。

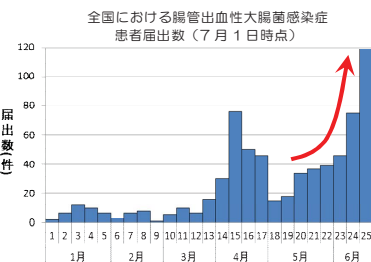


## ～ストップ！！腸管出血性大腸菌感染症～

O157に代表される腸管出血性大腸菌感染症の届出数が、6月以降、全国的に急増しています。川崎市においても第25週に6件、第26週に3件の届出がありました。例年夏に向けて患者数が増加しますので、今後注意が必要です。

### 腸管出血性大腸菌感染症の特徴は？

- 潜伏期間：2～14日（主に3～5日間）
- 主な症状：・激しい腹痛、頻回の水様性下痢  
・発熱は軽度で多くは37℃台  
・著しい血便とともに重篤な合併症を起こすこともある
- その他：感染力が強く、約50個程度の少量の菌でも感染する



### ～主な感染経路～



調理・加工の際に、生肉に付着している菌が野菜などに付着することがあります。

患者の便を介して、ヒトからヒトに感染することもあるため、便の取扱いには注意してください。

発行 川崎市健康安全研究所・健康福祉局健康安全部・各区役所保健福祉センター（保健所）  
（問い合わせ先） 044-276-8250

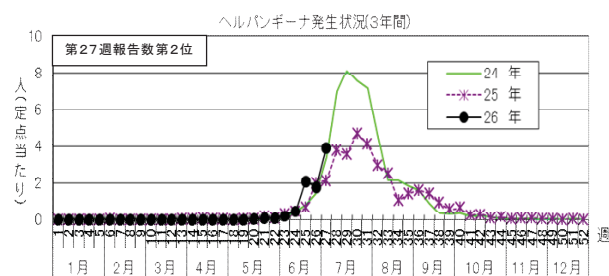
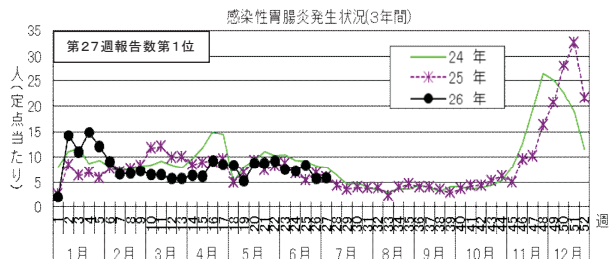
# 今、何の病気が流行しているか！

【感染症発生動向調査事業から】



平成26年6月30日（月）～平成26年7月6日（日）【平成26年第27週】の感染症発生状況

第27週で定点当たり報告数の多かった疾病は、1) 感染性胃腸炎 2) ヘルパンギーナ 3) A群溶血性レンサ球菌咽頭炎でした。感染性胃腸炎は定点当たり5.94人と前週（5.73）より患者報告数は増加しましたが、ほぼ例年並みのレベルで推移しています。ヘルパンギーナは定点当たり3.91人と前週（1.79）より患者報告数は増加しましたが、ほぼ例年並みのレベルで推移しています。A群溶血性レンサ球菌咽頭炎は定点当たり2.09人と前週（2.21）から患者報告数は減少しましたが、例年より高いレベルで推移しています。

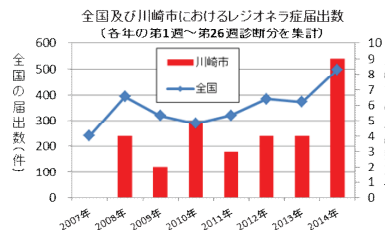


## 注意したい感染症～レジオネラ症～

近年、全国的にレジオネラ症による患者報告数が増加しており、川崎市でも今年は9件の発生がありました。特に、乳幼児や高齢者、病気にかかっている人など抵抗力の弱い人が発症しやすいので、注意が必要です。

### レジオネラ症ってどんな感染症？

**原因** レジオネラ属菌による細菌感染症  
**潜伏期間** 2～10日間  
**感染経路** レジオネラ属菌は本来土壌などに生息する細菌ですが、循環式浴槽、加湿器、給湯設備、噴水などで増殖します。エアロゾル（霧状になった水滴）とともに空中に飛散した菌を吸い込むことで感染します。  
**症状** 倦怠感、筋肉痛、発熱、咳などで発症し、肺炎を併発することが多いです。傾眠、昏睡、幻覚などの中枢神経系の症状が見られることもあります。



レジオネラ症の報告数は、全国的に、例年主に7月にピークを迎えることから、注意が必要です。レジオネラ症は早期治療が重要ですので、左記のような症状がある場合には、早めに医療機関を受診しましょう。



発行 川崎市健康安全研究所・健康福祉局健康安全部・各区役所保健福祉センター（保健所）  
 （問い合わせ先） 044-276-8250

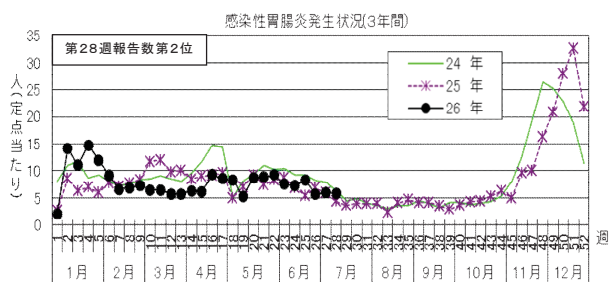
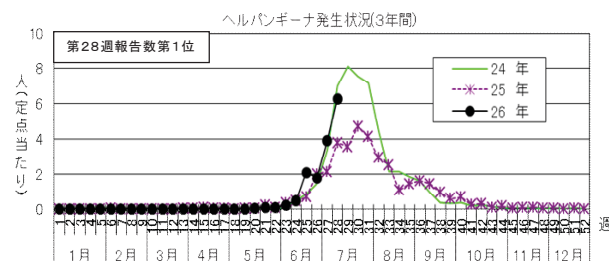
# 今、何の病気が流行しているか！

【感染症発生動向調査事業から】



平成26年7月7日（月）～平成26年7月13日（日）【平成26年第28週】の感染症発生状況

第28週で定点当たり報告数の多かった疾病は、1) ヘルパンギーナ 2) 感染性胃腸炎 3) A群溶血性レンサ球菌咽頭炎でした。ヘルパンギーナは定点当たり6.27人と前週（3.91）より患者報告数は増加し、流行発生警報基準値である定点当たり6人を上回りました。感染性胃腸炎は定点当たり5.85人と前週（5.94）より患者報告数は減少しましたが、例年より高いレベルで推移しています。A群溶血性レンサ球菌咽頭炎は定点当たり1.94人と前週（2.09）から患者報告数は減少しましたが、例年より高いレベルで推移しています。



## 1歳と2歳は要注意！！～ヘルパンギーナ～

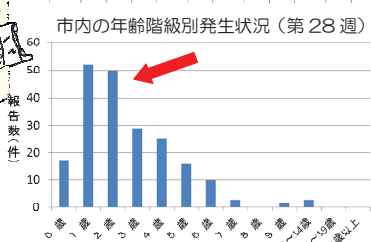
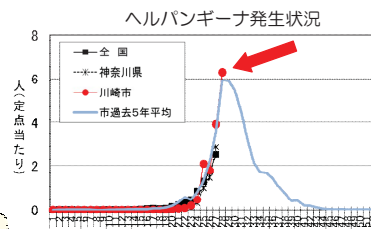
第28週のヘルパンギーナの患者報告数が、定点当たり6.27人となり、流行発生警報基準値である定点当たり6人を上回りました。現在、全国的にも1～2歳の小児を中心に流行しています。

### ヘルパンギーナの特徴は？

**潜伏期間** 2～4日間  
**症状** 高熱（38～40℃）、咽頭痛（のどの痛み）、のどの奥に白い水疱性の粘膜疹  
**感染経路** 患者ののどからの分泌物や便から感染（接触を含む糞口感染・飛沫感染）  
 ※症状がなくなっても、1～4週間間は患者の便の中にウイルスが排泄されます。



例年、患者の約9割が5歳以下ですので、保育園や幼稚園での流行にご注意ください。外から帰った後、食事の前、トイレやおむつ替えの後などの「手洗い」を徹底しましょう。



発行 川崎市健康安全研究所・健康福祉局健康安全部・各区役所保健福祉センター（保健所）  
 （問い合わせ先） 044-276-8250

# 今、何の病気が流行しているか！

【感染症発生動向調査事業から】



平成26年7月14日（月）～平成26年7月20日（日）[平成26年第29週]の感染症発生状況

第29週で定点当たり報告数の多かった疾病は、1)ヘルパンギーナ 2)感染性胃腸炎 3)手足口病でした。

ヘルパンギーナは定点当たり10.52人と前週（6.27）より患者報告数は更に増加し、流行発生警報基準値である定点当たり6人を大きく上回りました。

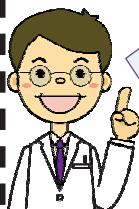
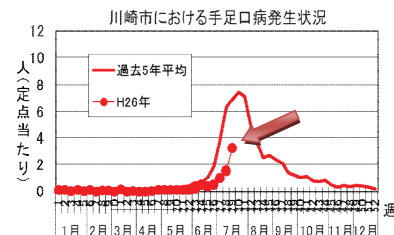
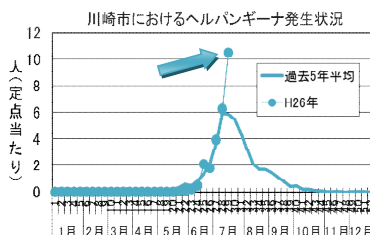
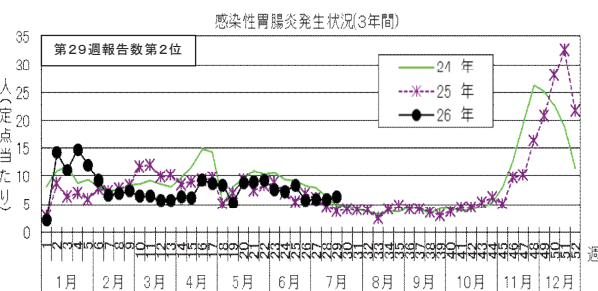
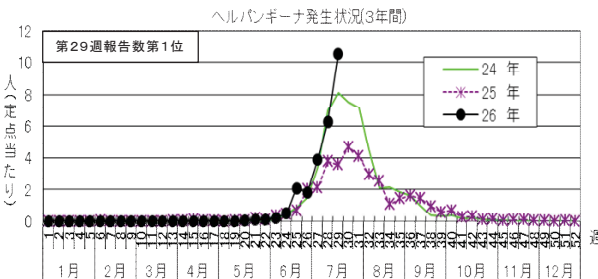
感染性胃腸炎は定点当たり6.27人と前週（5.85）より患者報告数は増加し、例年より高いレベルで推移しています。

手足口病は定点当たり3.24人と前週（1.58）から患者報告数は増加しましたが、例年より低いレベルで推移しています。



## ヘルパンギーナは更に増加！手足口病にも要注意！

ヘルパンギーナの患者報告数は3週連続で増加し、定点当たり10.52人と例年を大きく上回りました。また、手足口病の患者報告数も、徐々に増えていきます。ヘルパンギーナや手足口病は「夏かぜ」と呼ばれ、これから気温が上がると更に患者報告数が増加する可能性があります。



ヘルパンギーナや手足口病は、コクサッキーウイルスやエンテロウイルスなど、複数のウイルスが原因となるため、一度感染しても、再び別のウイルスに感染して発症することもあります。



予防の基本は「手洗い」

発行 川崎市健康安全研究所・健康福祉局健康安全部・各区役所保健福祉センター（保健所）  
（問い合わせ先） 044-276-8250

# 今、何の病気が流行しているか！

【感染症発生動向調査事業から】



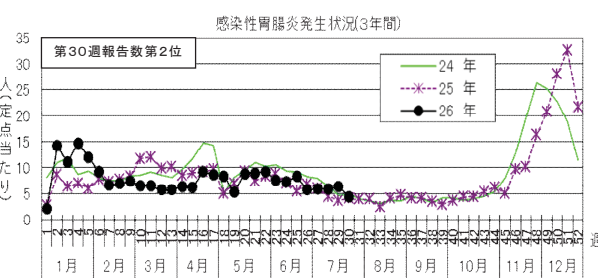
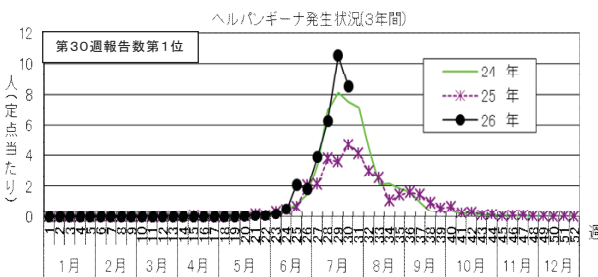
平成26年7月21日（月）～平成26年7月27日（日）[平成26年第30週]の感染症発生状況

第30週で定点当たり報告数の多かった疾病は、1)ヘルパンギーナ 2)感染性胃腸炎 3)手足口病でした。

ヘルパンギーナは定点当たり8.52人と前週（10.52）より患者報告数は減少しましたが、依然として流行発生警報基準値である定点当たり6人を上回っています。

感染性胃腸炎は定点当たり4.39人と前週（6.27）より患者報告数は減少し、ほぼ例年並みのレベルで推移しています。

手足口病は定点当たり1.61人と前週（3.24）から患者報告数は減少し、例年より低いレベルで推移しています。

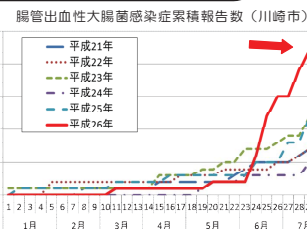


## ～食中毒警報が発令されました！！～

夏は気温や湿度が高くなり、腸管出血性大腸菌など細菌による食中毒が起こりやすくなります。

神奈川県では、食中毒発生の可能性が高まったことから、平成26年7月23日に食中毒警報を発令しました。

川崎市でも、今年は腸管出血性大腸菌感染症（O157 など）の届出数が例年を超える勢いで増加していますので、ご注意ください。



## 食中毒予防の3原則

家庭での食中毒を防ぐには、食中毒予防の3原則「つけない」「増やさない」「やっつける」を実践することが大切です。



発行 川崎市健康安全研究所・健康福祉局健康安全部・各区役所保健福祉センター（保健所）  
（問い合わせ先） 044-276-8250

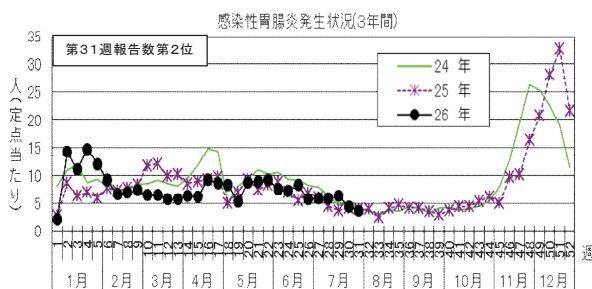
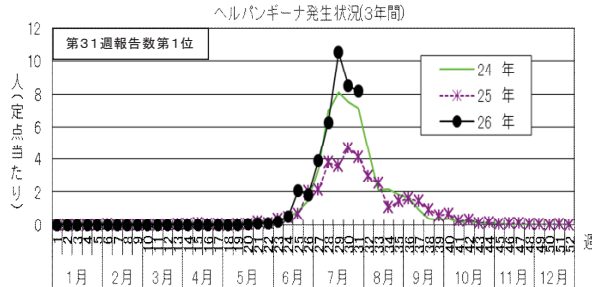
# 今、何の病気が流行しているか！

【感染症発生動向調査事業から】



平成26年7月28日(月)～平成26年8月3日(日)【平成26年第31週】の感染症発生状況

第31週で定点当たり報告数の多かった疾病は、1)ヘルパンギーナ 2)感染性胃腸炎 3)手足口病でした。ヘルパンギーナは定点当たり8.18人と前週(8.52)より患者報告数は減少しましたが、依然として流行発生警報基準値である定点当たり6人を上回っています。感染性胃腸炎は定点当たり3.67人と前週(4.39)より患者報告数は減少し、ほぼ例年並みのレベルで推移しています。平成11年の届出制度開始以降、市内で初めて日本紅斑熱の届出がありました。



## マダニが媒介する感染症に注意！

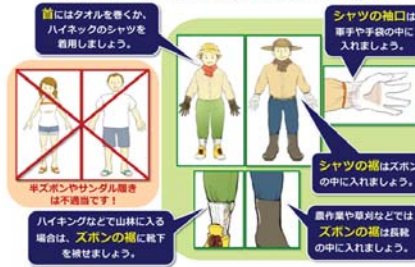
リケッチアという病原体をもつマダニ※に咬まれることで感染する病気の一つに日本紅斑熱があります。咬まれてから2～8日で発症し、通常はヒトからヒトへ感染することはありません。マダニに咬まれた後に発熱・発疹・頭痛・倦怠感などの症状がみられた場合には、日本紅斑熱やその他のダニ媒介性感染症の可能性がありますので、医療機関で診察を受けてください。早期診断・早期治療が重要です。

※マダニ：ダニの一種で、山野、畑、あぜ道、民家の裏庭や裏山に生息しています。



### マダニから身を守る服装

野外では、腕・足・首など、肌の露出を少なくしましょう！



### 重症熱性血小板減少症候群(SFTS)にもご注意ください

SFTSも、原因となるウイルスをもつマダニに咬まれることで感染する病気です。SFTSや日本紅斑熱などのダニ媒介性感染症予防のためには、マダニに咬まれないことが重要です。



国立感染症研究所ホームページより

発行 川崎市健康安全研究所・健康福祉局健康安全部・各区役所保健福祉センター(保健所)  
(問い合わせ先) 044-276-8250

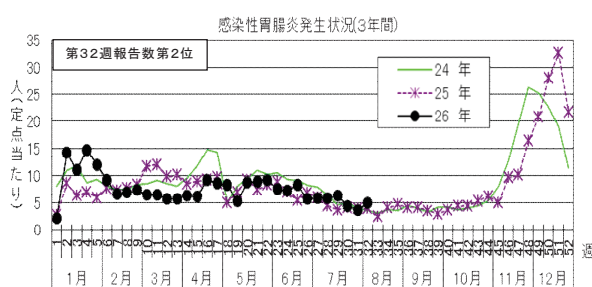
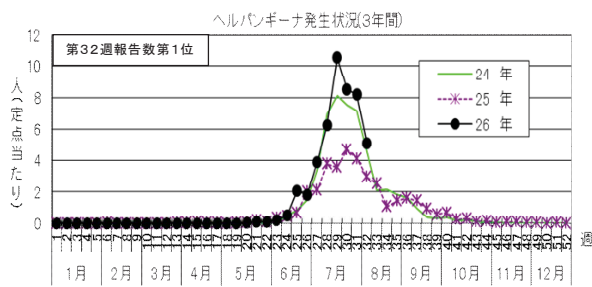
# 今、何の病気が流行しているか！

【感染症発生動向調査事業から】



平成26年8月4日(月)～平成26年8月10日(日)【平成26年第32週】の感染症発生状況

第32週で定点当たり報告数の多かった疾病は、1)ヘルパンギーナ 2)感染性胃腸炎 3)A群溶血性レンサ球菌咽頭炎でした。ヘルパンギーナは定点当たり5.13人と前週(8.18)より患者報告数は減少し、流行発生警報基準値である定点当たり6人を下回りました。感染性胃腸炎は定点当たり4.90人と前週(3.67)より患者報告数は増加し、例年より高いレベルで推移しています。A群溶血性レンサ球菌咽頭炎は定点当たり1.13人と前週(0.70)から患者報告数は増加し、例年より高いレベルで推移しています。

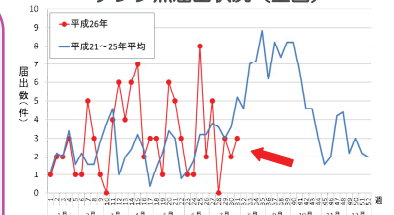


## 蚊が媒介する感染症～デング熱～

海外では、熱帯・亜熱帯地域を中心に「マラリア」「デング熱」「チクングニア熱」などの蚊が媒介する感染症が流行しています。

特にデング熱に関しては、国内でも毎年100～200例程度の輸入例の報告があり、例年、海外旅行者が多い8・9月を中心に届出数が増加します。流行地域から帰国した後に発熱がみられた場合には、必ず医療機関を受診してください。

### デング熱届出状況(全国)



### デング熱の特徴は？

**感染経路**：デングウイルスを保有した蚊に刺されることにより感染します。

**潜伏期間**：3～7日間

**症状**：突然の発熱で始まり、頭痛・筋肉痛・関節痛を伴うことが多く、発症後3～4日で胸部・体幹から発疹が出現します。通常1週間程度で回復しますが、デング出血熱やデングショックとよばれる重症な状態になることもありますので注意が必要です。

アスピリンなどを含む解熱剤の使用は危険なので、必ず医療機関を受診しましょう。

現地では、長袖と長ズボンを着用したり、虫除けスプレーや蚊取り線香を使ったりして、蚊に刺されないようにご注意ください。



発行 川崎市健康安全研究所・健康福祉局健康安全部・各区役所保健福祉センター(保健所)  
(問い合わせ先) 044-276-8250

# 今、何の病気が流行しているか！

【感染症発生動向調査事業から】



平成26年8月11日（月）～平成26年8月17日（日）【平成26年第33週】の感染症発生状況

第33週で定点当たり報告数の多かった疾病は、1)ヘルパンギーナ 2)感染性胃腸炎 3)水痘・手足口病でした。  
ヘルパンギーナは定点当たり5.80人と前週（5.16）より患者報告数は増加し、例年より高いレベルで推移しています。  
感染性胃腸炎は定点当たり4.65人と前週（4.81）より患者報告数は減少しましたが、例年より高いレベルで推移しています。  
水痘は定点当たり0.65人と前週（0.50）から患者報告数は増加し、例年より高いレベルで推移しています。  
手足口病は定点当たり0.65人と前週（0.97）から患者報告数は減少し、例年より低いレベルで推移しています。

## 西アフリカで流行中！～エボラ出血熱～

2014年3月以降、西アフリカのギニア、シエラレオネ、リベリアを中心に「エボラ出血熱」が流行しており、世界保健機関（WHO）は平成26年8月8日、「国際的に懸念される公衆衛生上の緊急事態」を宣言しました。日本では、現時点で過剰な心配をする必要はありませんが、流行地への不要不急の渡航は控えましょう。

エボラ出血熱ってどんな病気？

### 感染経路

エボラウイルスに感染し、症状が出ている患者の体液等（血液、分泌物、吐物・排泄物）や患者の体液等に汚染された物質（注射針など）に十分な防護なしに触れた際、ウイルスが傷口や粘膜から侵入することで感染します。

潜伏期間：2～21日

### 症状

突然の発熱、頭痛、倦怠感、筋肉痛、咽頭痛等の後、嘔吐、下痢、胸痛、出血（吐血、下血）等の症状が現れます。

### 治療法

ワクチンや特異的な治療法はなく、患者の症状に応じた治療（対症療法）を行います。

エボラ出血熱の発生状況（2014年8月13日現在）

| 国・地域   | 新たな患者数 | 確定患者数 | 回復した患者数 | 死亡した患者数 | 累計患者数 |
|--------|--------|-------|---------|---------|-------|
| ギニア    | 9      | 376   | 133     | 10      | 519   |
| リベリア   | 3      | 245   | 133     | 2       | 380   |
| シエラレオネ | 116    | 190   | 423     | 173     | 786   |
| ナイジェリア | 58     | 154   | 190     | 69      | 413   |
| コンゴ    | 0      | 11    | 0       | 1       | 12    |
| エボラ出血熱 | 0      | 4     | 0       | 0       | 4     |
| シエラレオネ | 27     | 733   | 38      | 39      | 810   |
| リベリア   | 14     | 309   | 34      | 5       | 348   |
| 合計     | 152    | 1,310 | 594     | 223     | 2,127 |
| 死亡者数   | 76     | 712   | 357     | 76      | 1,145 |

※2014年8月12日から8月13日までの期間に報告された新たな患者数  
出典：厚生労働省検疫所ホームページより

エボラ出血熱は、一般的に、症状のない患者からは感染せず、空気感染もないといわれています。  
病気に正しい知識を持ち、しっかりと対策を行うことで、感染を防ぐことができます。



発行 川崎市健康安全研究所・健康福祉局健康安全部・各区役所保健福祉センター（保健所）  
（問い合わせ先） 044-276-8250

# 今、何の病気が流行しているか！

【感染症発生動向調査事業から】



平成26年8月18日（月）～平成26年8月24日（日）【平成26年第34週】の感染症発生状況

第34週で定点当たり報告数の多かった疾病は、1)感染性胃腸炎 2)ヘルパンギーナ 3)突発性発疹でした。  
感染性胃腸炎は定点当たり5.30人と前週（4.65）より患者報告数は増加し、例年より高いレベルで推移しています。  
ヘルパンギーナは定点当たり3.21人と前週（5.80）より患者報告数は減少しましたが、例年より高いレベルで推移しています。  
突発性発疹は定点当たり0.79人と前週（0.60）から患者報告数は増加しましたが、例年より低いレベルで推移しています。

## 腸管出血性大腸菌感染症に注意！！

全国的に腸管出血性大腸菌感染症（O157、O26 など）の届出数が増加しており、川崎市でも例年を超える勢いで増加しています。腸管出血性大腸菌は、菌に汚染された食べ物を食べることや、患者の糞便で汚染されたものを口にすることで感染します。

いずれの場合も、手を介して感染することが多いため、「手洗い」を行うことがとても重要です。日頃から手洗いの習慣を身につけましょう。

「手洗い」は感染症対策の基本です。正しい手洗いを心がけましょう。



発行 川崎市健康安全研究所・健康福祉局健康安全部・各区役所保健福祉センター（保健所）  
（問い合わせ先） 044-276-8250

# 今、何の病気が流行しているか！

【感染症発生動向調査事業から】



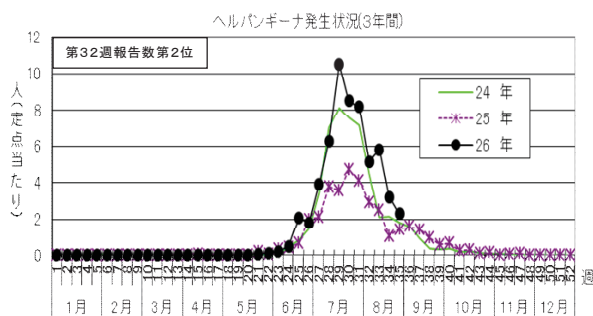
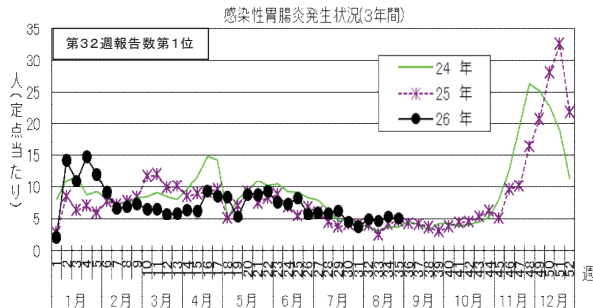
平成26年8月25日（月）～平成26年8月31日（日）【平成26年第35週】の感染症発生状況

第35週で定点当たり報告数の多かった疾病は、1)感染性胃腸炎 2)ヘルパンギーナ 3)突発性発疹でした。

感染性胃腸炎は定点当たり4.94人と前週（5.30）より患者報告数は減少しましたが、例年より高いレベルで推移しています。

ヘルパンギーナは定点当たり2.31人と前週（3.21）より患者報告数は減少しましたが、例年より高いレベルで推移しています。

突発性発疹は定点当たり0.91人と前週（0.79）より患者報告数は増加しましたが、例年より低いレベルで推移しています。

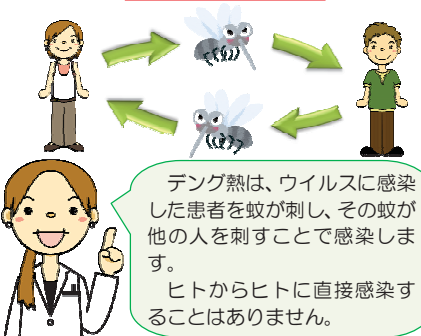


## 国内での感染疑い事例～デング熱～

デング熱は、国内でも年間100～200例程度の輸入例が報告されていますが、今年の8月以降、海外渡航歴のないデング熱の国内感染疑い事例が、9月2日時点で34名報告されています。

川崎市では、平成14年以降蚊の捕集調査を実施していますが、デングウイルスを保有する蚊が検出されたことはありません。

### 感染経路は？



デング熱に感染しないために、虫除け対策を徹底してください。

### 気をつけたいこと

予後は比較的良好な感染症ですが、デング出血熱やデングショックとよばれる重篤な状態になることもあります。また、アスピリンなどを含む解熱剤の使用は出血症状を悪化させることがありますので、ご注意ください。

鼻血や歯ぐきからの出血が止まらない状態や不安・興奮状態は重症化のサインですので、早めに医療機関を受診してください。

発行 川崎市健康安全研究所・健康福祉局健康安全部・各区役所保健福祉センター（保健所）  
（問い合わせ先） 044-276-8250

# 今、何の病気が流行しているか！

【感染症発生動向調査事業から】



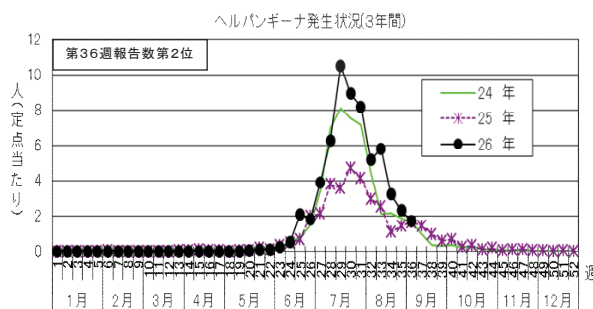
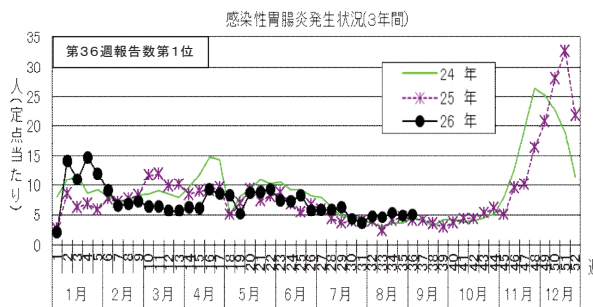
平成26年9月1日（月）～平成26年9月7日（日）【平成26年第36週】の感染症発生状況

第36週で定点当たり報告数の多かった疾病は、1)感染性胃腸炎 2)ヘルパンギーナ 3)手足口病でした。

感染性胃腸炎は定点当たり5.03人と前週（4.94）から患者報告数はほぼ横ばいで、例年よりかなり高いレベルで推移しています。

ヘルパンギーナは定点当たり1.70人と前週（2.31）から患者報告数はほぼ横ばいで、例年とほぼ同じレベルで推移しています。

手足口病は定点当たり1.12人と前週（0.88）より患者報告数は増加しましたが、例年とほぼ同じレベルで推移しています。



## ～食中毒予防に有効な加熱・消毒方法～

例年、夏期には細菌、冬期にはウイルスが原因となる食中毒事例が増加します。

今年は、9月2日までに全国で427事例の食中毒事例が報告されており、9月以降もノロウイルスやカンピロバクターなどを原因とした事例の増加が推測されます。

有効な加熱・消毒方法は以下のとおりです。

### 有効な加熱・消毒方法

#### 1 十分な加熱

中心部まで85～90℃で90秒以上

#### 2 アルコールでの消毒

手指などは消毒用エタノール（76.9～81.4v/v%）を使います。

手を石けんで洗い、乾燥させた後に消毒してください。

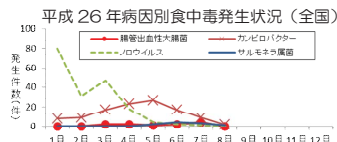
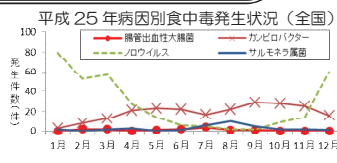
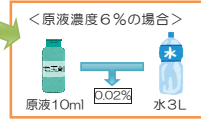
※ただし、消毒用エタノールは、ノロウイルスにはあまり効果がないと言われています。

#### 3 次亜塩素酸ナトリウムでの消毒

細菌やウイルスなどを失活させるためには、次亜塩素酸ナトリウム（塩素系漂白剤）を使用します。

調理器具などは、必ず中性洗剤などで十分に洗浄した後に、塩素濃度0.02%の次亜塩素酸ナトリウムで浸すように拭きまじょう。

※次亜塩素酸ナトリウムは、商品に記載してある使用方法をよく確認して使用してください。



発行 川崎市健康安全研究所・健康福祉局健康安全部・各区役所保健福祉センター（保健所）  
（問い合わせ先） 044-276-8250

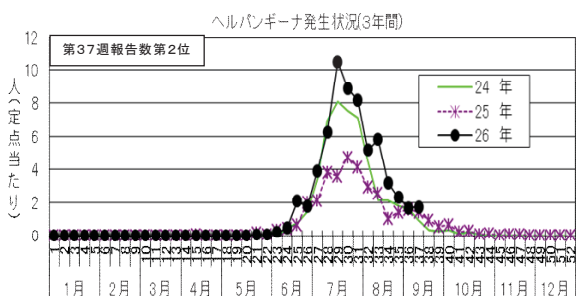
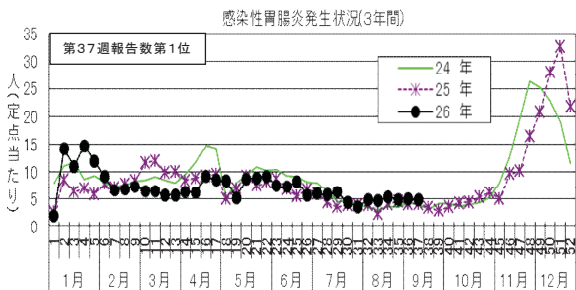
# 今、何の病気が流行しているか！

【感染症発生動向調査事業から】



平成26年9月8日(月)～平成26年9月14日(日)【平成26年第37週】の感染症発生状況

第37週で定点当たり報告数の多かった疾病は、1)感染性胃腸炎 2)ヘルパンギーナ 3)手足口病でした。  
感染性胃腸炎は定点当たり4.82人と前週(5.03)から患者報告数は減少しましたが、例年より高いレベルで推移しています。  
ヘルパンギーナは定点当たり1.73人と前週(1.70)から患者報告数はほぼ横ばいでしたが、例年より高いレベルで推移しています。  
手足口病は定点当たり1.30人と前週(1.12)から患者報告数はほぼ横ばいで、例年とほぼ同じレベルで推移しています。



## 「RSウイルス感染症」～秋から冬に向けて流行する感染症～

全国的にRSウイルス感染症の患者報告数が増加しており、川崎市においても、平成15年のデータ収集開始以降、過去最多のペースで患者報告数が増加しています。RSウイルス感染症は、「RSウイルス」を原因とする呼吸器疾患で、ほとんどの乳幼児が2歳までに感染します。

例年12月頃に流行のピークを迎えるため、今後の動向に注意が必要です。

### RSウイルス感染症の特徴は？

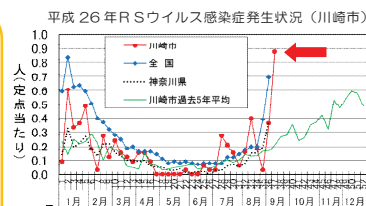
**感染経路：**咳や鼻水等による飛沫・接触感染

**潜伏期間：**3～5日間

**症状：**発熱、鼻水、咳などの風邪様症状が2～3日続きます。また、乳児患者の10～40%が呼吸困難などの下気道炎を起こすといわれています。

さらに、心疾患、肺疾患、免疫不全、さらにダウン症などは、重症化のリスクを高める原因となります。ハイリスクの新生児・乳幼児に対しては、感染を予防する方法もありますので、医療機関で御相談ください。

**治療：**特異的な治療方法はありませんので、対症療法を行います。



流行期(特に冬場)に乳幼児を連れて外出する際には  
**人ごみを避け、大人は手洗いの徹底やマスクの着用**などを心がけましょう。

発行 川崎市健康安全研究所・健康福祉局健康安全部・各区役所保健福祉センター(保健所)  
(問い合わせ先) 044-276-8250

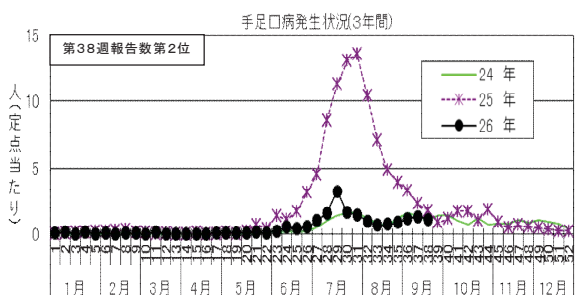
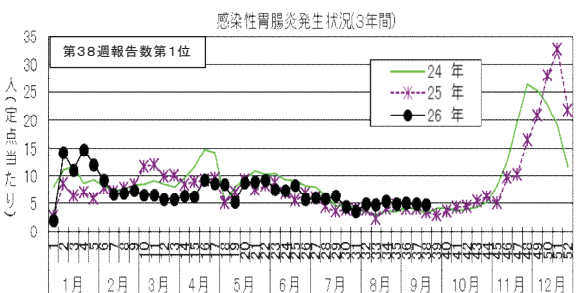
# 今、何の病気が流行しているか！

【感染症発生動向調査事業から】



平成26年9月15日(月)～平成26年9月21日(日)【平成26年第38週】の感染症発生状況

第38週で定点当たり報告数の多かった疾病は、1)感染性胃腸炎 2)手足口病 3)水痘・ヘルパンギーナでした。  
感染性胃腸炎は定点当たり4.70人と前週(4.82)から患者報告数はほぼ横ばいでしたが、例年より高いレベルで推移しています。  
手足口病は定点当たり1.09人と前週(1.30)から患者報告数はほぼ横ばいで、例年とほぼ同じレベルで推移しています。  
水痘は定点当たり0.88人と前週(0.58)から患者報告数は増加し、例年より高いレベルで推移しています。  
ヘルパンギーナは定点当たり0.88人と前週(1.73)から患者報告数は減少し、例年とほぼ同じレベルで推移しています。



## 長引く咳は「結核」かもしれません！

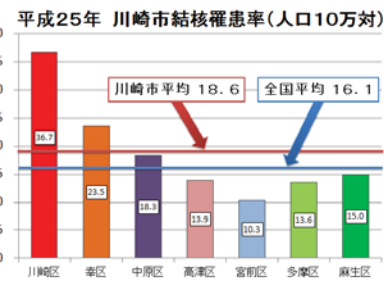
平成26年9月24日から9月30日までは「結核予防週間」です。結核は、国内で年間2万人以上が新たに発病している感染症です。この結核予防週間を契機に、結核に関する正しい知識を深め、感染予防及びまん延防止に努めましょう。

### こんなときは医療機関へ！！

結核の初期症状は、風邪とよく似ています。次のような症状が続く場合には、結核を疑って早めに医療機関を受診してください。

- ①咳が続く(2週間以上)
- ②痰(たん)が出る
- ③身体がだるい
- ④微熱が続いている

結核は、早期発見・早期治療が重要です。



市内では、特に川崎区において結核罹患率が高く、市全体でも全国平均より高い状況です。

発行 川崎市健康安全研究所・健康福祉局健康安全部・各区役所保健福祉センター(保健所)  
(問い合わせ先) 044-276-8250